



## JETプログラム30周年記念 アジアのELTにおける協カ・ コミュニケーション・チーム学習

ジュディ・ヨネオカ  
熊本学園大学  
SDC

2017年11月29日

JET参加者の皆様、おめでとうございます！



各県のJETプログラム外国語指導助手の指導力等向上研修の二つの主な目的は、ALTとJTE間のコミュニケーションを促進することとチームティーチングの効率を改善することです。この研修会は、ALTとJTEと一緒にワークショップに参加し、お互いに自由に意見を交換できる貴重な機会です。

<http://jetprogramme.org/en/acs-con/>

### 30年間の日本の変化

高成長→バブル崩壊後  
日本人論→国際化  
西洋化→グローバル化  
てれびっこ→インターネット民  
変な外人→カルチャークール  
受験地獄→ゆとり世代  
EFL→ELF  
TAE→TTE

### 概要

- 絶え間なく変わり続ける日本
- JTE-ALTコラボやコミュニケーション（変化しないこともある）
- クラス、チーム、障害
- コミュニケーションとは：解決？
- コミュニケーション法：世界の様々な英語及びEIL理論

### 20世紀文化 → 21世紀文化

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>当時:</b></li> <li>• 人口統計や受験地獄</li> <li>• バブル景気</li> <li>• 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」</li> <li>• 「NOと言える日本」(1989)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>現在:</b></li> <li>• インターネット           <ul style="list-style-type: none"> <li>- SNS、瞬時世界コミュニケーション、情報過多</li> </ul> </li> <li>• バブル後景気、PTJが一番</li> <li>• 国民総かっこよさ：日本文化の再評価</li> </ul> |
|--|---|

### 20世紀生徒 → 21世紀生徒

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>当時:</b></li> <li>• 「モンキーショー」</li> <li>• 「外人」</li> <li>• 読解・文法能力</li> <li>• “This is a pen.”</li> <li>• 「ハロー」</li> <li>• 「外国人は日本人の考え方が理解できない」</li> <li>• 勤勉、やる気がある</li> <li>• 部活動→授業→PTJ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>現在:</b></li> <li>• “hello”と言えるが...本当に言いたいのか？</li> <li>• 聴解・会話能力</li> <li>• モチベーションの変化：反抗</li> <li>• The “thirstless horse” 症候群</li> <li>• PTJ → 授業 → 部活動</li> </ul> |
|--|---|

## 20世紀ELT → 21世紀ELT

- **当時:**
- 中学校・高校
- 外国人(つまりアメリカ人)に日本を説明する
- 一般実力
- 読解・文法・翻訳
- コミュニケーション法(コミュニケーション能力、CLT)
- 教科書、テープレコーダー
- EFL
- **現在:**
- 小学校
- 英語を英語で教える
- CLIL
- 多様な英語への敬意
- アクティブラーニング
- CEF-RやCan-do
- 生徒中心学習
- PICTモチベーション
- コミュニケーション能力
- ELF

## 30年後のJETプログラム

関係する観察者は、一般的にJET好き又はJET嫌いのグループに分かれる。前者は、プログラム名にもある"exchange"を強調し、JETプログラムは日本の国際化に寄与するものと考え、JETプログラムを擁護する。後者は、"teaching"を指摘し、生徒の英語能力に改善が見られないのでお金の無駄であると批判する。

**As Japan's JET Programme hits its 30s, the jury's still out** (Japan Times, May 3, 2017)

## 文献より

- 日本では、ほとんどの教育プログラムは学校管理関係者によって教師に課されている。このプログラムに不満を感じているチームティーチングを行う教師には1つの対応法しかない。同僚と協力しながらチームティーチング状況を改善するしかない。  
(Tonks, online)
- 実際には、JTEは非常に忙しく、その上ALTは複数の学校を訪問する。このような制約があると、一緒に授業を計画する時間や振り返りの時間を確保するのは難しい。  
(Sponseller, 2017, p. 129)

## 日本では

- 時間制約の問題が、KachiとLeeのインタビュー調査研究によって報告された。二人の日本人英語教師(LET)とJETプログラムに参加している三人のALTを対象にした研究であるが、特にLETが非常に忙しく、ALTとの共同授業の準備するための時間が不足していることが分かった。結果として、ALTは日本の教育組織の一員ではなく、お客さんのようとして扱われていると感じた。このことは、日本人英語教師とALTが密に協力し、コミュニケーションをとる時間が不足すれば、チームティーチング関係にも問題が生じることを示唆している。  
(Copland, Garton and Mann 2016)

## 韓国では

- LET(韓国人英語教師)の限られている英語能力がLETとNEST間のコミュニケーションの障害となる。加えて、学校形態の違いが共同作業に影響を与えているようである。例えば、中学・高校の教師より小学校の教師の方がより強力的であることが分かり、それは恐らく、小学校英語教育においては会話の発達に焦点があてられているためである。理想的には、計画から指導や評価までのすべての過程をとおして、NESTとLETは常に協力し合うことが望まれる。しかし、実際には協力が非常に限られていて、このような協力ができる場面がほとんどないようだ。事実、NESTとLETのコミュニケーションが不足しているのかも知れない。
- (Copland, Garton and Mann 2016)

## 台湾では

- 私には、コミュニケーションはまだ難しい。もっとも難しいことだと思う。ある教師(NNEST)の英語が障害になる時もある。その教師と二人で話し合い、私が授業で何をやるつもりかを説明し、実際それをやろうとしたところ、授業が始まったらその教師が(勝手に?)通訳するのです。彼女が通訳した後、生徒達が私が彼らにしてほしかったことと違うことをする場合もあった。その上、レッスンプランの打ち合わせでも同じような問題がある。英語がより上手な教師がそこに参加しても、私が説明したことが誤って解釈される。(Brian)
- (Copland, Garton and Mann 2016)

## 香港では

- Storeyの香港中等教育授業における教師間の協力に関する研究に基づいた調査では、CarlessとWalkerの二人は、教師は密に協力することはなく、NESTとLET間の真の協力が不足していると報告した。結果として、相互理解や共有が少なく、特に、教育に関する考え方や実践において緊張感や不安があり、そのせいでチームティーチングをする時に共通点を見出せなかった。
- (Copland, Garton and Mann 2016)

### 言語的に強いAET VS. 文化的に強いJTE (Miyazato 2009)

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| • JTEの利点:            | AETの利点:               |
| • 1. (より深い)教室文化の理解   | • 4. (より上手な)英会話能力     |
| • 2. (より多くの)重要決定への参加 | • 5. (より多い)生徒や社会からの憧れ |
| • 3. 手本としての影響力       | • 6. (より正しい)ネイティブな英語  |

“初めからわかっている立場の違い”、それならその違い(不均衡)をもっと力に変えよう

### チームティーチングを行う 教師間のコミュニケーション障害

- 様々な人、様々な場面、様々な教室文化
- 時間制約のある中でのコミュニケーション

## リバーズ・チームティーチング

- JTEの責任は重い、ALTは授業で主要な役割を担う。(Browne 2008)
- 1994年に和田は、ALTは日本人の児童生徒達に積極的に話しかけるべきであり、JTEは英語の言葉、具体的な関心事や事実を説明し、生徒達の質問に答えるべきであると推奨している。(Browne 2008)
- 2002年、Macedoは中学校ではRTTがもっともよく見られることに気付いた。(Browne 2008)

### チームのメンバーは以下の重要な 決断をすべきである

- (1) 何をさせるのか(例: 単元、レッスンの目的など)、そしてどのような順序で行うのか
- (2) どのように内容を示すのか(例: 大人数向けの授業か少人数向けの授業か)
- (3) だれが情報を与えるのか
- (4) どのように生徒を評価するのか
- (5) 少人数のグループをどのように分けるのか、どの教師がどのグループを指導するのか (Goetz, 2000, online)

### TCC (教師のコミュニケーションチェックリスト): 解決?

- 英語(又は別の外国語)と日本語
- 高校/中学校/小学校向け
  - 最初の打合わせ(2ページ>20分)
  - 授業前の打合わせ(1/2ページ>5分)
  - 授業後の振り返り(1/2ページ>5分)
- これがビジョンだ!

## 最初の打合わせチェックリスト

先生の性格  
 子どもたちの特性  
 クラスのスタイル  
 資料や教材  
 クラスの目的  
 教師の役割 (JTE, ALT)  
 言語の使い方  
 教室内のコミュニケーション  
 生徒の様子  
 非常事態  
 教室外の業務  
 宿題や評価

## 授業前の打合わせ

- 授業案があるか？
- ウォーミングアップ活動は？
- メインの活動は？
- 何か新しいことは？
- 宿題は？

## 授業後の振り返り

- うまいかなかったことは？なぜ？
- うまいいったことは？なぜ？
- お互いにコミュニケーションが足りなかった点  
は？
- 改善できる点は？
- 生徒のモチベーションをどのように改善できる  
か？
- 次の授業の準備は？
- (宿題、活動)

## パート2: 共通言語としての英語の使い方



※English as a Lingua Franca (ELF) = 共通言語としての英語

## ELF: コミュニケーション法

- 違いを認め、尊重し、ほめる
  - 日本の英語VS誤った英語
- コミュニケーション能力や適応能力を使う

- (be) Friendly (フレンドリーに)
- Repeat (繰り返す)
- Ask again (聞き返す)
- Change (expressions) (言い方を変える)
- Explain (with) Examples (例を使って説明する)
- Remember (with mnemonics) (語呂合わせ等を用いながら覚える)

FRACER

Vive la difference:

様々な英語に対する敬意

- 発音 - コミュニケーションを妨げるだろうか？
- 文法 - 小さな間違いがあってもいいのではないか？
- 語用論 - “Yes, I don’t eat sashimi.” ※“Yes”であれば、刺身は食べるのだが...

## コミュニケーション適応戦術： デガワから学ぼう



## 授業法を伝えてみよう

- 実現
- 理想

## 未来に向けたコミュニケーション

- 新しい試験
- 政府・行政の期待の変化
- 小学校での英語授業導入による今後入学してくる児童の変化

## 引用文献

- Copland, F., S. Garton and S. Mann (2016) **LETs and NESTs: Voices, Views and Vignettes**, British Council.
- Browne, K. (2008) Who is teaching what? Insights from ELT Professionals within the JET Programme, *Polyglossia*, 15, Oct. 2008, p. 65-72.
- Miyazato, K. (2009) Linguistically powerful AETs vs. Culturally Powerful JTES (JALT)
- Sponseller, A.C. (2017), Role Perceptions of JTEs and ALTs engaged in team teaching in Japan. *Hiroshima journal of school education*, 23, p. 123-130. [http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/4/42781/20170419113008205309/HiroshimaJSchEduc\\_23\\_123.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/4/42781/20170419113008205309/HiroshimaJSchEduc_23_123.pdf)
- Tajino, A., T. Stewart, and D. Dalsky (eds.) (2016) *Team teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT*, NY: Routledge.
- Tonks, B. ESL Team teaching in the Japanese context: Possibilities, Pitfalls and Strategies for Success, *International TEYL Journal*